

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2023年春号 vol.24



開眼式を迎えた八代目 龍神マルコと加倉井憲一 代表理事



春の野菜料理

時短で簡単な朝食!



▲JA木嶋ぐるめ米ランド
シャキシャキのパセリ。

ホットケーキの素を水だけで、少しゆるめに溶きます。中火で温めたフライパンに流し入れてフツフツと泡が出て来たら、出盛りのパセリを細かく刻んで、お好みのチーズを入れて裏返します。

薄い程すぐに焼き色がついて美味しそうに出来ます。カルシウム、ミネラル豊富な、時短、簡単朝食の出来上がり。

**12年目を迎えたNPO法人エコ・エコの
自然保護・学習・調査活動**

2011年から緑のトラスト1号地の西側の休耕田・湿地で地主さんの了解のもと、湿地(マルコ)での自然保護・学習活動や植物の調査を開始。以来、12年にわたり、湿地の植物や動物の保護・学習・調査活動を実施し、2019年度は、1年間でボランティア延べ605名、参加者一般大人759名、子ども1156名、計2575名の方々が参加する大きな自然保護・学習活動となっています。2017年度には、埼玉環境大賞・優秀賞を受賞されています。

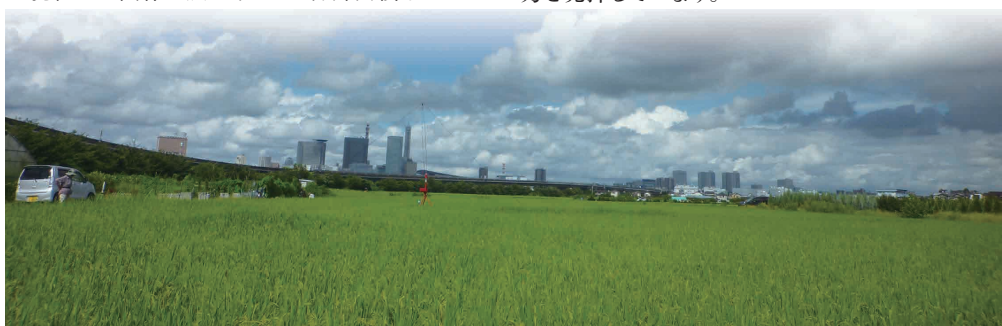
25年目を迎えた見沼たんぼの「公有地利活用事業」

日本の農地政策では、農業者以外の者が「農地を経営管理する」ことを農地法で認めていません。

その例外として、埼玉県が公有地化基金で取得した農地を、新たな担い手として「市民団体に管理委託し運営」してもらい、「多数の市民の農業体験活動など」として活用する活動は、農業文化の歴史からも画期的な事業です。1999年(平成11年)に、見沼ファーム21や見沼福祉農園など5団体から始まった公有地利活用事業ですが、25年目を迎えた現在、10団体に広がり、その合計面積も11.9ha

となり、活動内容も多彩なものとなってきています。さらに永年の活動実績から、周辺の農業者からの信頼も得て、「援農形態での受託農地」も大きく広がっています。

25年にわたる見沼たんぼの公有地利活用事業は、①市民と農業との関わりによる持続可能な農コミュニティの実現、②見沼たんぼ地域の歴史や農村文化の保全・伝承、③斜面林や見沼代用水など貴重な緑地・水辺環境の保全・整備等に大きな力を発揮しています。



▲見沼ファーム21などの市民団体が耕作に参加している上山口新田の水田

膝子の米作り農家中野さんに「農地バンク」について聞きました。

膝子で代々続く農家中野栄寿さんのお宅に伺いました。中野さんは春～秋は米作り、冬場は苺をメインに栽培していますが、これから米作りを続けていきたいとお考えです。しかし全国でも高齢化に伴いリタイヤする農家が増え、更に米の価格が低迷する中で、効率的な米作りのため農地の有効活用が益々大きな課題になってきています。

そこで中野さんから各都道府県でも計画されている農地バンク(農地中間管理機構)の概要を伺いました。「農地を貸したい人から農地を借り受け、必要に応じて条件整備を行い、農地を必要とする人にまとまりある形で転貸する」のが農地バンク事業であり、条件が整えば利用していきたいとのこと。ご自宅膝子の東に広がる「膝子たんぼ」地区で一部の農地交換や経営面積拡大を目指していきたいと語っています。

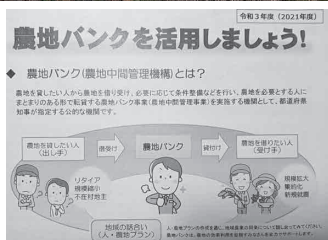
見沼区膝子595-1



▲膝子たんぼ風景



▲中野栄寿さん



▲農地バンクの仕組み(地方農政局資料から抜粋)

花と緑の祭典(春の園芸まつり)

●5月3日(水・祝)～4日(木・祝)、3日 9:00～16:00

4日 9:00～15:00 ※雨天決行、一部中止

●さいたま市市民の森・見沼グリーンセンター(北区見沼2-94)

●JR宇都宮線 土呂駅より徒歩約8分または東武アーバンパークライン大和田駅より徒歩約15分

祭典は5月の連休中に開催されます。さいたま市主催の植栽、即ち草花類、植木類、苗類、農産物等を即売する楽しいイベントです。農業や園芸の振興並びに緑化啓発、世界文化等への理解と促進や友好親善を図ることを目的に「春の園芸まつり」「シビックグリーンさいたま」「国際友好フェア」の3つのイベントが共同開催されます。

「春の園芸まつり」では野菜などの農産物・植木・花卉・苗木などの即売、盆栽・洋蘭などの展示と即売、「シビックグリーンさいたま」は緑化推進のPR活動のほか、花いっぱいコンクール、「国際友好フェア」は外国文化の紹介をはじめ、多様な民族料理・民族品の展示・販売や民族舞踊・音楽の演奏などが催されます。



▲春の園芸まつり



▲国際友好フェア

さいたま市内のマルシェ(農産物直売市)

市の地産地消の取組の一環として市・区役所にて農産物プチャマルシェを毎月開催しています。新鮮な農産物が買えるのはもちろん、美味しい食べ方や保存方法も聞けるチャンスです。(開催日は市HP参照。中央・南区は月2回開催も)。

イベント名	時間(目安)
プチャマルシェ(本庁舎1F)	11:00～売切次第終了
プチャマルシェ(大宮区役所1F)	10:30～売切次第終了
プチャマルシェ(中央区役所東側)	10:00～13:30
プチャマルシェ(南区役所1F)	10:00～13:30
Parkマルシェin山丸公園	10:00～13:30
Parkマルシェinさいたま新都心	14:30～
みぬマルシェ(見沼区役所)	11:00～13:00
大崎公園マルシェ	10:00～14:00



▲みそのいち(美園駅改札前1月27日)

*表は市HP(経済局/農業政策課生産振興係 TEL.048-829-1378)より

他に、みそのいち(美園駅改札前他)毎月最終金曜15:00～19:00)：一般社団法人美園タウンマネジメントが運営

プチャマルシェ(大宮区役所12月19日)▲

見沼のお店紹介!

コンドウハウス:カフェ「Konキッチン」

緑区山崎交差点とさいたま市立病院の中間点あたり、見沼代用水西縁に沿った静かな住宅街の一角に、昨年4月にオープンしました。本格タイ料理とバイニミー(ベトナムサンドイッチ)、自家製台湾カステラやベトナム風ブリンの他、20種類以上の紅茶やこだわりのコーヒーなどを楽しめます。

ここを運営するNPO法人「新しい住まい方研究所」代表の太田好泰さんは、地域に暮らす様々な人が世代や所属などを越えて、ゆるやかに、かろやかに繋がることのできる「みんなの居間」のような場所を作りたいと、築60年の空家になった妹さんの義父母の住宅を改装、この家にずっと暮らしてきた近藤さんになんで「コンドウハウス」と命名しました。カフェの他に子ども食堂、シニア食堂、高齢者の暮らし全般の相談ができるサロンや介護者カフェなど、誰もがまわりの人たちとのつながりの中で安心して暮らせる仕組みをつくるための様々な活動を行っています。

これからの季節、散策の折りのランチやお茶のひとときを、庭に面したテラスから差し込む光が広がる落ち着いた店内で、ゆったりと過ごしてみたいかがでしょうか。

緑区三室680-1 TEL.FAX.048-711-4990

Konキッチン:水・木・金・土 11:30～16:30 <https://www.facebook.com/Kondohouse.Mimuro>

店入り口▶



▶ランチセット(グリーンカレー) サラダ、デザート、フリードリンク付950円



▲スタッフのみなさん(左から近藤匡美さん、太田好泰さん、高田美美子さん)

見沼野菜直売センター (こばやし農園直売センター)

小林弘治さんは、慶応大学法学部卒業、サラリーマンとして22年間勤めた会社を退職、2014年47歳で新規就農、2017年に(株)こばやし農園を設立。環境保全型農業を目指して、3.0ha(内1.6haたんぼ)という圃場で葉菜・果菜・根菜など50～60種類の野菜を無農薬・無肥料で栽培しており、2020年には江戸時代からの長い歴史と、豊かな土壌の見沼たんぼで生産される野菜を「見沼野菜」と名づけ商標登録をしました。

その他、見沼野菜塾・見沼たんぼの保全活動・見沼野菜サポーター養成・オンラインショップを運営し、また近い将来、農業の6次産業化を目指すなど、今後の活躍が囑望される異色の経歴をお持ちの方です。

見沼区片柳1-127『万年寺』西
(直売所営業日・時間は季節により変わりますのでHPを参照してください)



▲小林弘治さん



見沼野菜



小林農園HP▲

と果菜類を中心に栽培している頼 明さん。

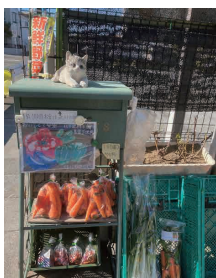
元々は農業とは無縁の生活でしたが、たまたま家の近くにてきた市民農園で奥様が野菜作りを始め、時々手伝いを頼まれてやってみたら、その面白さと採れたて野菜のおいしさにすっかりハマってしまっただけです。そこからは、川口市の農業塾からさいたま市の就農予備校を経て、県の「明日の農業担い手育成塾」へと進み、今年10月の卒業後は農業者としての自立を目指して、現在、研修中です。

お訪ねした時は、露地の畑はまだ作物の少ない静かな時期でしたが、やわらかな日差しを浴びてニンジン、ネギ、里芋などが収穫を待っていました。自然の甘味と香りがたっぷりのニンジンはとても素直な味で、生でぱりぱりといくらでも食べられるおいしさ。葉先は天ぷらにすると最高!だそうで、ぜひ、試してみてください。春から夏にかけての季節には、ニンジンや大根に加えて、タマネギ、ジャガイモ、ニンニク、オクラ、キュウリ、ナス、枝豆などがにぎやかに畑を彩ります。

頼さんの野菜を販売している所:
カインズ浦和美園店 緑区美園1-11-1
ララガーデン川口 地産マルシェ 川口市宮町18-9
別所沼マルシェ、大崎公園マルシェ
直売所(川口市柳崎5丁目交差点からすぐの、手打ちそば「天手古舞」駐車場隣)
お問い合わせ:lafarm@gmail.com



▲頼 明さん



▲直売所

見沼たんぼの真ん中で「菜の花畑と体験ジャガイモ畑」

みぬま緑ふれあいの会

農業5名、造園業3名、花生産1名、外が7名という「専門家を中心とした団体」です。

新見沼大橋(有料橋)の北側で、さいたま市が県から管理受託した公有地約2,000㎡を「緑区の有志の方々」が2004年から引き受けて、見沼たんぼの真ん中で「菜の花畑と体験ジャガイモ畑」を運営しています。専門家団体の畑だけあって見事な菜の花が咲いています。

千鳥代表(左)と中村事務局長▶



見沼のお店紹介!

季節の味を大事に「和食八のじ」

大宮駅東口から車でひたすらまっすぐ見沼自然公園と加田屋たんぼに向かうと、御蔵の交差点を過ぎた所に外見は倉庫のような店があります。一步店内に入ると天井は高くおしゃれな和モダンの佇まいで清潔感も感じられます。「きちんと季節を感じる」ことのできる料理を、こんな時代だから特別な時間をもっと大切に楽しめる空間で提供したい」という若い店主八巻さんのこだわりがこもった内装です。

口コミの評判通り、落ち着いた雰囲気と味わう和食のメニューにも食器やインテリア・小物にも一味違うセンスを感じさせます。ランチには煮魚定食、麦とろ飯と豚肉の炙り、ほぐし鮭といくらの親子丼、鮮魚の海鮮丼、刺身・焼魚も付く定食など、また期間限定のメニューもあり豊富です。ディナータイムにはコース料理もあり、店主自慢のお酒を揃えた飲み放題コースもあります。

見沼区御蔵356-2 大宮駅、東武大和田駅、七里駅から4キロ少々…ですが、大宮駅東口からバスの場合:東武バス東口7番より乗車、15分程で片柳小学校下車。駐車場5台分。TEL.048-707-5570

営業時間:ランチ 11:00 ~ 14:30 (L.013:30)

ディナー 17:00 ~ 22:00 (L.021:00) 日曜定休



▲店外観



▲店内



▲定食の一例(まぐろの炙りと鮮魚の海鮮丼)



▲八巻俊之さん

エシカルCafe「としょかんのとなり」

「やどかりの里」が大宮東図書館の一角にエシカルCafe「としょかんのとなり」をオープンします。

食事は勿論、自前で採れた野菜を使用。プレオープンには子供たちにも優しいヤギさん(角がない種類)も参加します。

4月18日(火) プレオープン 5月9日(火) グランドオープン

TEL.048-680-1891



訂正:見沼・旬彩2022-23冬号の「はるおかいちご園」さんの電話番号に間違いがありました。正しくは080-6554-7497です。お詫びして訂正いたします。

5月9日 グランドオープン



高橋園

高橋園は、この地で3代続く盆栽園。現在小売りは行っておらず、主に事業者向けの盆栽の苗木を生産・販売している。

ご自宅に隣接する敷地は、代々伝わる古木感溢れる盆栽・ビニールハウス内には、育苗中の苗木や小盆栽の鉢・そして畑には育苗中の苗木が出荷を待っている。

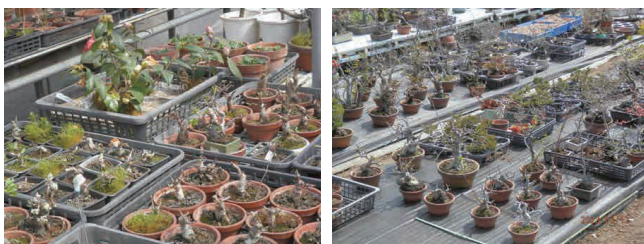
近年は女性が好んで手掛ける小鉢やコケ玉に適した素材も人気とのこと。

市場のニーズを敏感にキャッチし、それらに適した苗木の生産に取り組まれているお姿からは、盆栽をこよなく愛し、3代続く盆栽園さんとしての自信と誇りがひしひしと伝わってまいりました。

緑区大崎2806 TEL.090-4373-4930



▲園主・高橋光喜さん



MINUMA New Face 森田農園LABOの園主、森田喜昭さん



▲森田喜昭さんと美味しい4種のイチゴ

大学卒業後、大手電機メーカー T 社の家電製品企画に約20年間勤めました。直接買い手の反応が分かる仕事がしたく、また父親が高齢で体調を崩したことから就農しました。就農5年目の園主森田さんはイチゴ（アマリン、トチオトメ、ベニホッペ、ヤヨイヒメ）、枝豆、ネギ、ブロッコリー、カリフラワ、ナス、ハウレンソウ、コマツナ、サトイモ、ジャガイモ、サツマイモ、ムギ（緑肥）等50品目の農産物を



▲埼玉県知事賞の授与

を栽培し、販売しています。特にイチゴは4品種、ハウス2棟3,000株の土耕栽培で「見た目も美しく、甘くて美味しい」と人気の商品です。出荷先は

JAさいたま木崎ぐるめ米ランド、伊勢丹、丸広百貨店、ヤオコー、マミーマート、各地のマルシェ、朝市等です。

JA-TAC (Team for Agricultural Coordination) からアドバイスやサポートを受けながら、また経営に関するスタディをしながら将来設計を進めています。3年前、埼玉県農業生産工程管理(S-GAP)の認証を取得し、S-GAP実践農場として評価を受け、活躍をしています。昨年JA埼玉県青年部体験交流集会・青年の主張大会で埼玉県知事賞を受賞しました。

将来、「農福連携を志し、企業とタッグを組むことを考えており農業を通じ社会貢献を関りたい」と抱負を持っています。

見沼区藤子621-1

尾島農園

尾島正治さんは江戸時代から続く農家の13代目。写真撮影にお伺いした日も、お二人と大学生のお孫さんの三人で農作業中。自宅の敷地・畑には「クマガイソウ」と「イカリソウ」が自生しており、昭和33年12月にクマガイソウは見沼区の花として市指定天然記念物に。そして昭和40年11月にはイカリソウも、市指定天然記念物に指定されました。



▲尾島和子さん・正治さんご夫妻



▲クマガイソウ

▲イカリソウ



▲ブルーベリーの収穫体験

クマガイソウ・イカリソウの見ごろは4月中、詳しくはホームページを確認ください。

見沼区御蔵937 TEL.048-685-0446



尾島農園は、埼玉県が推進する緑豊か農・山・村で自然や文化・人々との交流を楽しみ余暇をのんびりと過ごす、グリーンツーリズムに参画、年4回農産物収穫体験事業を行っています。

6月 ジャガイモ	7月 ブルーベリー
9月 栗	10月 京いも・ハツ頭

申込方法:じゃらんQRコードを読み込み、尾島農園のページから申し込みしてください。

▲農産物収穫体験



講演会 見沼の農業などの講演会

染谷・加田屋地区における公園等の整備について

さいたま市役所の染谷・加田屋地区整備室は、大宮聖苑建設時の地元自治会との協定事項である染谷、加田屋地区における環境整備を推進しています。所掌する公園等の整備事業についてご説明をお聞かせします。是非、ご出席をお願いします。

6月20日(火)(予定) 15:00 場所:七里公民館大会議室

●テーマ:「染谷・加田屋地区における公園等の整備について」

●講師:さいたま市 都市局 都市計画部 染谷・加田屋地区整備 室長 秋元宏友様

●申込み・連絡先:黒澤 メール:kurosawa@peach.ocn.ne.jp

ガイド
ツアー

見沼龍神行列と祇園船祀リツアーのご案内

2023年5月4日(祝・木) 25名募集
集合:10:30 東浦和駅前広場 参加費:300円

コース:東浦和駅⇒バス停総持院⇒國昌寺・開門の儀→龍神行列→氷川女體神社→見沼氷川公園(昼食)→磐船祭祀場・祇園祀り→見沼氷川公園・解散→芝原小学校 バス⇒東浦和駅

主催:見沼たんぼ地域ガイドクラブ

担当ガイド:北原典夫 連絡先:090-2675-1684

申込み・メール:minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp

FAX.048-834-5731



今号に掲載された、見沼たんぼ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ

